

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 5 日現在

機関番号：32621
 研究種目：基盤研究(C)（一般）
 研究期間：2014～2016
 課題番号：26370633
 研究課題名（和文）第2外国語教育における独語、仏語、西語の連携の提案 - カリキュラムの構築と教授法

 研究課題名（英文）Curriculum Development and Methodology in Second Foreign Language Education:
 Collaborative inquiry in the teaching of German, French and Spanish

 研究代表者
 廣康 好美 (HIROYASU, Yoshimi)

 上智大学・言語教育研究センター・教授

 研究者番号：50249067
 交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,900,000円

研究成果の概要（和文）：本科研は、独語、仏語、西語の連携を目指し1.カリキュラムの構築、2教授法の連携の2点で研究を進めた。1では、2年目から、CLIL（内容言語統合型学習）を研究し将来的に導入を目指すという大きな目標を打ち立てた。日本での英語以外の外国語教育においてその知名度はまだ高いとは言えないCLILについて、メンバーが研究を進めるとともにシンポジウムを企画し学内外の第2外国語担当の教員を中心にCLILを知らしめ、多くの研究者との意見交換を行った。2については、異なる言語を教えている教員が集まった勉強会や授業見学などを通してお互いに学び合うとともに、最終年度に成果を出版、大学関係者を中心に無料配布している。

研究成果の概要（英文）：In this KAKEN, we considered the following points regarding the curriculum content of the German, French and Spanish programs taught.1.The development of the curriculum 2. Creating collaboration amongst instructors teaching different languages. Regarding point 1, in the second year, we placed an overall aim to study a Content and Language Integrated Learning approach to education in order to implement it in our future programs. Since CLIL is still less well known to instructors of languages other than English, we shared our knowledge regarding the dual focused approach with language instructors and researchers by holding two symposia. As regards point 2, we made opportunities for exchange of ideas in an environment where instructors teaching different languages were able to participate through classroom observations and discussion seminars. Lastly, we published the results of our inquiry in the form of a publication which we are now distributing for free amongst university professors.

研究分野：スペイン語教育

キーワード：内容言語統合型学習 初習言語 教授法 授業の活性化 複言語

1. 研究開始当初の背景

大学におけるドイツ語、フランス語、スペイン語等の第2外国語教育には、以下の2つの特筆すべき問題点がある。

(1) ヨーロッパ言語共通参照枠が欧州評議会によって設定され、日本でも複言語主義が広く提唱されるようになり、言語のレベルについては、言語間で共通の認識を持つことが可能になった。しかし大学の第2外国語教育では、それぞれの言語で様々なカリキュラムの工夫や教授法の研究が行われていても、言語間での情報共有が活発に行われているとは言えない。

(2) 大学の第2外国語教育は、多くの大学で非常勤講師の教員に依存しており、そのカリキュラムは少数の、言語教育を専門としない専任教員によって決められている場合が多々見られる。他大学の現状を参考にするための資料が非常に限られているため、各大学の責任者は試行錯誤を繰り返しながらカリキュラムを作成しているのが現状である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、第2外国語としての言語教育において、ドイツ語、フランス語、スペイン語の3か国語の連携関係を打ち立てることである。具体的には、大学や学部単位で決められているカリキュラムの現状と学習の成果を調査し、各大学の実情にあったより理想的なカリキュラム構築のための資料を提供し、モデルを提案すること、外国語教授法に関して、タスクのひな型、学習ストラテジー、学習上の問題点やその解決法等の具体的な材料を収集し、広く情報を提供することである。

3. 研究の方法

3年間の研究機関を通して、次のような方法で研究を進めていった。

(1) 上智大学内の実態調査

平成26年度、学生の各外国語の履修動機や身に着きたいスキルを探るためのアンケート調査を行った。平成27年度にその結果を細かく分析発表した。

(2) 他大学の实態調査

大学のホームページなどを参考に、他大学で教えられている初習言語の実態を調査した。

(3) グループ内での勉強会

それぞれの言語のカリキュラムの比較や、教授法の情報交換等を目的の勉強会を行った。海外での調査結果等を発表するなどの情報共有を行った。対象3言語のみならず、英語の講演会等にも多く参加し、学んだことを共有した。

(4) ワークショップの開催、参加

教授法関連のワークショップを開催した。ま

た他大学等で行われているワークショップにも発表者として参加した。

(5) シンポジウムの開催

各年度1回ずつ、シンポジウムを開催し、学内外の研究者との意見交換を行った。

4. 研究成果

目的にあげた2点において次のような成果が得られた。

(1) カリキュラムの構築

カリキュラム構築に関しては、主に次の活動を行い、大きな成果を得ることができた。

学生のニーズに関するアンケート調査カリキュラムの構築の基礎研究として、平成26年度、上智大学でドイツ語、フランス語、スペイン語を第2外国語として学習している学生にアンケート調査を行った。アンケートの目的は学生のニーズを正しく把握することである。主に学生がなぜ当該年度にその科目を履修したか、次年度以降どのような種類のクラスを希望しているかである。

このアンケート調査の結果は、上智大学言語教育研究センター発行の学術誌、Linguaに「初習外国語の教育課程に求められるものドイツ語、フランス語、スペイン語履修者への意識調査結果の比較と考察」と題する論文の形で発表した。これらの履修者のニーズには、3か国語で共通する点、異なる点が見られ非常に有意義な調査であった。

カリキュラム改定の実施と分析

上智大学では、平成28年度に主要な初習言語(ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、韓国語)で大きくカリキュラムが改定された。カリキュラム改定は、大学の制度上の制限の中で、学生のニーズにできる限り答えながら、到達レベルを上げる目的で行われた。それは、大学の要求に応じて行われたものであるが、研究代表及び分担者はそれぞれの言語の責任者でもあるため、研究成果を生かし、このカリキュラム改定の中心的役割担った。

新カリキュラムでは、各言語すべてのコア科目が共通教科書を用いた共通シラバスの総合科目となった。これは他大学のモデルにもなりうるものと考えられるので、分析調査を行い将来的には論文等の形で発表する予定である。

CLILの導入の試み

上智大学の英語教育においては、すでに内容言語統合型学習(CLIL)が実践され、多くの研究が進んでいる。平成28年度より、初習3言語においてCLILの実践を目指すという方針を打ち立て、実践に向けての方法を模索し始めた。CLILの普及の一環を担う目的で平成27年度、28年度と連続してCLILのシンポジ

ウムを開催した。平成 28 年 1 月には、「外国語初級レベルでの CLIL の実践と応用」(企画代表廣康好美、メインスピーカー逸見シャンタール)、平成 29 年 1 月には、「外国語教育における CLIL の実践と応用」(企画逸見シャンタール、メインスピーカー、池田真、スピーカー北村亜矢子他)が開催された。いずれの年も、大学や高校で様々な言語の教育にかかわる教員や学生などの 100 人程度の参加者があり、活発な議論が交わされた。

シンポジウムの記録等は、平成 29 年度発行の Lingua に掲載予定である。

(2)教授法の連携

シンポジウムの開催

平成 27 年 1 月に「自律した学習者の育成に向けて」と題するシンポジウムを開催した(企画代表廣康好美)。講演者は、ドイツ語、フランス語、スペイン語それぞれ 1 名ずつで、自律学習をテーマに最新の研究についての講演会を行った。また午後は共同学習についてのワークショップを行い、大変有益な実践的な学びの場となった。参加者は様々な言語教育にかかわる教員や学生約 50 人であった。

ワークショップの開催、参加

スペイン語では、平成 26 年度、27 年度に教授法を学び合う目的で複数回ワークショップを開催した。

平成 27 年 12 月には、獨協大学で行われたフランス語教授法研究会主催のアトリエに、北村、Durrenberger、廣康が参加発表した。これはフランス語教員対象のものであるが、スペイン語、ドイツ語、イタリア語の模擬授業を行い、実際に学生の立場を体験できるようにしたものである。

平成 29 年 3 月には、関西フランス語教育研究会のアトリエで北村が上智大学で行っている、初習 5 言語による Language Exchange の報告を行った。

「授業を活性化するための 70 のレシピ」の出版

研究期間を通して共有してきた、授業を活性化するためのアイデアや、タスクのひな型等を、どの言語でも使える形にまとめて書籍として出版した。著者はメンバー外からも募り使いやすい形で 70 ページにまとめ 800 部印刷、それぞれの言語の学会などにおいて、大学等で語学教育に携わる教育者や研究者に無償で配布している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 1 件)

北村亜矢子、廣康好美、正木晶子(2015)「初習外国語の教育課程に求められるもの ドイツ語、フランス語、スペイン語履修者への意識調査結果の比較と考察」『Lingua』26, 132-149. (査読あり)

<http://digital-archives.sophia.ac.jp/r>

[pository/view/repository/00000036145](http://digital-archives.sophia.ac.jp/repository/view/repository/00000036145)

〔学会発表〕(計 3 件)

廣康好美、Clase en español de profesores no nativos, XXIX Congreso CANELA, 2017 年 5 月 28 日、セルバンテス協会東京(東京都・千代田区)

北村亜矢子、西川葉澄、上智大学言語教育研究センターにおける初習 5 言語による Language Exchange の試み、第 31 回関西フランス語教育研究会、2017 年 3 月 28 日、上田安子服飾専門学校(大阪市・北区)

北村亜矢子、Vincent Durrenberger、廣康好美、初級の授業を活気づけるコツ、第 29 回獨協大学フランス語教授法研究会、2015 年 12 月 6 日、獨協大学(埼玉県・草加市)

〔図書〕(計 3 件)

廣康好美、北村亜矢子、Durrenberger Vincent、正木晶子、Moyano Juan Carlos、逸見シャンタール、西川葉澄、岩崎大輔、中島さやか、河崎佳代、Lopez Emmanuel、Mailleux Coline、Obara Diane、Piriu Vincent(2017)「授業を活性化するための 70 のレシピ」弘学社、80.

北村亜矢子、Durrenberger Vincent(2017)「発音ビデオ付き新オンプラクティック! - 使える・発音(はな)せるフランス語-」朝日出版社 104.

廣康好美(2016)「これならわかるスペイン語文法」NHK 出版、380.

6. 研究組織

(1)研究代表者

廣康 好美 (HIROYASU Yoshimi)上智大学・言語教育研究センター・教授
研究者番号：50249067

(2)研究分担者

北村 亜矢子 (KITAMURA Ayako)上智大学・言語教育研究センター・准教授
研究者番号：30636262

逸見 シャンタール (HEMMI Chantal)上智大学・言語教育研究センター・准教授
研究者番号：00730053

正木 晶子 (MASAKI Akiko)上智大学・言語教育研究センター・准教授
研究者番号：10407372

(3)連携研究者

デュレンベルジェ バンサン (DURRENBERGER Vincent)上智大学・言語教育研究センター・非常勤講師
研究者番号：60727600

モヤノ ファン カルロス (MOYANO Juan
Carlos) 清泉女子大学・スペイン語スペ
イン文学科・専任講師
研究者番号： 902726853

マイヤー アンドレアス (MEYER Andreas)元
上智大学・言語教育研究センター・常勤嘱託
講師
研究者番号： 10453599